

サステナビリティ報告の概念フレームワークと人的資本会計

島 永 和 幸

目 次

- 1. はじめに
- 2. 財務諸表における自然、社会及び人的資本に与える影響の開示 (CC討議資料) の概要と検討
- 3. サステナビリティ報告に関する概念フレームワーク (CFSR (暫定版)) の概要と検討
- 4. おわりに

人的資本会計では、認識アプローチによる会計研究の重要性や必要性が認識されながらも、基準設定主体レベルでは開示の拡充化によって対処されてきた。そもそも製造資本と人的資本ではその性質が大きく異なっている。そのため、製造資本を主たる対象とする財務報告の枠組みで人的資本の議論を行うことに、固有の限界と矛盾を抱えていた。そこで本稿では、こうしたアプローチの限界を克服するために、財務諸表とは別個の自然、社会及び人的資本諸表の導入を図るべく、サステナビリティ報告の概念フレームワークのあり方を中心に議論を行う。

1. はじめに

筆者は、これまで財務報告の枠組みの中で、人的資本をいかに認識・測定し、オンバランス化を図っていくかを検討し、いくつかの可能性のあるアプローチを考察してきた。しかしながら、そもそも有形資産や金融資産を主たる対象とする財務報告の枠組みでは、いずれのアプローチもその課題を克服するには至らなかった。

そこで、これまでの既存の財務報告の枠組みで認識・測定を行うという考え方から大きく発想を転換して、それとは別個の報告書をサステナビリ

ティ会計に導入するアプローチの可能性を模索する。これによって、既存の財務報告に大きな影響を及ぼすことなく、膠着状況であった人的資本の認識・測定問題を大きく前進させる可能性が生まれると考えるからである。

IFRS財団は、2021年11月、国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) を設立した。ISSBは、IFRSサステナビリティ開示基準等に関するサステナビリティ報告のための基準設定機関である。だが、2022年11月現在、「サステナビリティ報告に関する概念フレームワーク」(以下、CFSR) に関する検討は行われていない。なお、本稿では、



島永 和幸 (しまなが かずゆき)

神戸学院大学 経営学部 教授。2003年神戸大学 大学院経営学研究科 博士課程後期課程修了 (博士 (経営学))。主な著書に、『人的資本の会計—認識・測定・開示—』(同文館出版、2021年) がある。